

第5回笛吹市文化施設の在り方に関する検討委員会

議事報告

開催日時：令和7年1月16日（木） 午後7時 開会

開催場所：笛吹市役所本館 3階 301会議室

出席者：佐藤委員長、近藤委員、角田委員、長澤委員、秋田委員、石倉委員、
吉岡委員、山下委員、鈴木委員、須田委員、返田委員（総合政策部長）
小澤政策課長 政策推進担当 樋川課長補佐、河西主幹、阿部副主幹、
渡邊主査、角田文化財課長、瀬田課長補佐

欠席者：大川委員、一瀬委員、杉山委員、山寺委員

傍聴人：非公開のため傍聴人なし

【進行：政策課長】

1 開会

2 委員長あいさつ

年が明け初めての検討委員会となる。今年も引き続きよろしく願います。現在、新型コロナウイルスとインフルエンザが同時流行しているようである。委員の皆さんには健康に十分留意していただきたい。

第4回検討委員会では、市の計画などを踏まえた文化施設の位置付けなどについて、事務局から説明を行い、各施設の在り方などを検討した。また、その後、文書でも委員から御意見をいただいたところである。

本日の検討委員会では、これまで皆さんからいただいた御意見を踏まえて、本検討委員会の肝となる笛吹市の文化施設の在り方について検討する。事務局からいくつかの案を提示することになっており、協議を通じて、ある程度方向性が見えてくれば良いと思っている。委員の皆さんには忌憚ない御意見を願います。

3 議事

(1) 笛吹市が所蔵している美術品について

事務局からの説明後、質疑応答を行った。

【質問意見等】

(委員長)

市所有の美術品 320 点のうち、現在市内の施設で展示しているのは 64 点とのことだが、この 64 点の展示は定期的に入れ替えているのか。それとも固定しているのか。

(文化財課)

全てを把握しているわけではないが、彫刻や大型の絵画などを展示しているため、定期的な入れ替えは行っていない。

(委員)

展示されていない美術品がとても多く驚いた。今後これらをどうしていくのか何か計画はあるのか。

(文化財課)

これらの美術品は春日居郷土館で何度か展示している。今後も定期的に公開していきたいと考えている。

(2) 委員から出された整備方針(案)の確認について

事務局からの説明後、質疑応答を行った。

【質問意見等】

質問意見なし

(3) 意見を踏まえた整備方針(案)の検討について

事務局からの説明後、質疑応答を行った。

【質問意見等】

(委員)

美術館については、ある程度規模の大きい施設を市立美術館として整備することができれば様々な活用方法が考えられると思う。その一方で、青楓美術館がこれまでの間、あの規模で様々な企画を催しながら存続してきたのは、青楓美術館に対する地元の方々の熱い想いがあったからこそであり、その想いを尊重していくことも大事であると感じている。そういった意味では、青楓という冠を残した美術館を、一宮町内の別の場所に移転することが良いのではないかと。また、地域の方々がサポーターのような形で運営にも関わってもらえることができれば、より持続可能な施設になると思う。

八代郷土館については、民具に特化した施設が適切ではないかと考える。

春日居郷土館については、青楓美術館と八代郷土館の方向性が決まれば、おのずと方向性も定まってくるのではないかと。

以上を踏まえると、事務局が提示した4つのパターンの中では、1つ目のパターンが私の考えに最も近い。

(委員)

青楓美術館については、名称をどうするのかは別として、これまで地域の方々が熱い想いと誇りをもち、大事にしてきたというプロセスを考えると、施設を一宮町外に移転するという事は現実的に難しいと思う。私は市立美術館として整備することが良いと考えているが、美術品をその施設に集約するとなった場合、現在の青楓美術館ではスペースが足りず不可能である。したがって、一宮町内の別の場所に市立美術館として整備することが理想である。

博物館については、ジャンルが異なるものを一緒に展示した場合、どのような学芸員を配置し、どのような説明を行うのかといったことが大きな課題となってしまふ。また、各施設に特色を持たせて差別化を図るという整備方針を自らばやかしていくことにもなりかねない。したがって、八代郷土館は民具に特化した施設であるということをも明瞭に打ち出し、春日居郷土館は地域の歴史に特化した施設とすることがよいのではないかと思う。笛吹市は目玉となり得るものが多すぎるくらいあり、そういったものをしっかり展示するとした場合は、春日居郷土館は現在の2倍、3倍以上の規模の施設にリニューアルしていく必要がある。

また、「縄文に関する展示は釈迦堂遺跡博物館へ」という説明があったが、これはあまりにも単純な考え方である。釈迦堂遺跡博物館は釈迦堂遺跡という特色をはっきり打ち出しており、土偶の博物館として国内トップクラスの施設である。それを安易に縄文だったら釈迦堂遺跡博物館へという考えは到底受け入れられない。

(委員)

美術館については、青楓作品に限らず、笛吹市にゆかりがある方の作品を含めて展示する市立美術館とすることに賛成の立場である。施設の場所は桃畑やぶどう畑が近くにある一宮町あたりが良いのではないか。

また、以前にも言ったが、峡東地域は山梨の文化や歴史を全て持っている地域で、そういったものをもっと活かしていくべきである。

八代郷土館については、ボランティアガイドの話が出たが、その人材をどう育成していくのかなど、多くの課題があると思う。

春日居町には奥山家という大地主だった方がいて、貨幣などを身延町にある甲斐黄金村・湯之奥金山博物館に寄贈している。笛吹市にはこのような偉人がたくさんいる。そういった方々に関する展示もできればなお良いと思う。

(委員)

埋蔵文化財は年々増えていくと思うが、民具も同じように増えていくものなのか。

(文化財課)

民具は埋蔵文化財のように発掘したら収蔵しなければならないものではない

いため、毎年必ず増えるということはない。寄贈の申し出があり、それを受け入れた場合には増えることもある。

(委員長)

民具をある程度整理し、八代郷土館に集約することは可能なのか。

(文化財課)

可能である。現在はスペース目一杯に民具が保管されているため、集約する場合には整理が必要である。

(委員長)

これまでの意見を踏まえると、春日居郷土館については、市立博物館として笛吹市の歴史文化に特化した施設として整備し、八代郷土館については民具を中心とした施設という整理ができると思う。ほかにも意見があれば伺うがどうか。

(委員)

意見なし

(委員長)

青楓美術館についての意見はどうか。

(委員)

地域の方々が誇りと愛着を持って青楓美術館を大事に守ってきたことは分かる。そうした中で意見を言うことは大変失礼になるが、観光利用などの面も含めて市の将来のことを考えると、国や県の補助金などを活用した上で、市立美術館としてもっと規模の大きい施設を整備するほうが得策ではないかと思う。場所は一宮町内でもほかの場所でも良い。

また、観光客をひきつけるために公園やカフェなども一緒に整備し付加価値をつけることができれば、なお魅力的な場所になるはずである。

繰り返しになるが、地域で活動されている方々の想いは十分に理解できる。しかし、合併して20年が経過し、市としてある程度規模の大きい施設を整備する段階にきているのではないか。それがひいては文化振興だけでなく、地域経済の活性化や観光振興などにもつながっていくと考えている。

(委員)

市立美術館を整備することには賛成だが、青楓美術館は青楓という名称があるからこそ機能している施設であり、その冠を外した場合、来館者が減少することが懸念される。

したがって、一宮町内の別の場所に、青楓という名称を残しつつ、市立美術

館として他の美術品も展示できるような施設を整備することが適切ではないかと考える。

(委員)

例えば「笛吹市立青楓記念美術館」などの名称にすること自体は難しい話ではないと思う。ただし市立美術館としての機能を持たせるには、市にゆかりのある作家の作品をたくさん収蔵していく必要がある。そうなった時に青楓作品とそれ以外の作品をどの程度の割合で展示するのかという課題が新たに生じるが、青楓という冠がある以上、それなりの作品数を展示する必要があると考える。

(委員長)

本日出された意見を踏まえると、美術館については青楓という冠をつけた上で他の美術品も収蔵する市立美術館として整備、八代郷土館については民具に特化した展示を行う施設、春日居郷土館については市の歴史に特化した施設とするのが良いのではないかという整理ができる。

また小林家土蔵については、本日意見は出ていないが、事務局からカフェや本市の偉人を紹介する施設としてはどうかという話もあった。

ほかに委員の皆さんから何か意見はあるのか。

(委員)

市立美術館の展示の仕方として、他自治体の取組を参考に紹介する。

例えば仙台市博物館は支倉常長を核としたコレクション展示を行いながら、他の展示も常に行っている。また、山口県立美術館ではシベリア抑留を体験した香月泰男の作品を、他の展示とあわせて常に見せていくという工夫をしている。笛吹市の市立美術館については、施設の名称をどうするのかということはあるにしても、展示方法を工夫して、青楓作品を展開していくことも可能だと思った。

八代郷土館については、民具が豊かで、その存在そのものが魅力的であると感じている。民具に特化した施設として保存の環境を整え、展示と体験を両立していける施設となる可能性は十分にあると考えている。

(委員長)

他の施設の事例は参考になる。事務局でも他施設の展示の事例などを調べ、次回の検討委員会で情報提供いただく中で、本市の文化施設の方向性について、引き続き議論を深めていきたいと思う。本日は以上で終了する。御協力に感謝する。

4 その他

(1) 第6回検討委員会について

事務局から開催日時の候補日を提示した。

5 閉会

午後 8 時 30 分 閉会

第5回笛吹市文化施設の在り方に関する検討委員会

日時：令和7年1月16日（木）
午後7時00分～8時30分
会場：本館3階301会議室

次 第

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

- (1) 委員から出された整備方針（案）の確認について（P1～P9）
- (2) 意見を踏まえた整備方針（案）の検討について（P10～P11）

4 その他

- (1) 第6回検討委員会の開催日について

5 閉会

委員から出された整備方針（案）の確認について

1 青楓美術館

(1) 一宮町内に限定せず、「市立美術館」として整備することが望ましい。

(2) 青楓美術館のみの運営で考えるとすれば、建物も含め、大型の車両を受け入れられるような改修が可能なら現在の場所での改修も選択肢となるのではないかと。

それが困難であれば、一宮町に限定せず、「市立美術館」として、笛吹市ゆかりの芸術作品を収集・展示する施設としての整備も、将来的な視点からすれば有効と思う。

(3) 基本的には、前回示された一宮町内の別の場所で「青楓美術館」として存続というところが、現状の関係者感情を踏まえると落としどころだとは思う。とはいえ、ハードからソフトまであまりにも問題が重層的になっているように感じ、特にソフト面については、笛吹市博物館運営協議会と青楓美術館運営協議会の在り方など、構造的な問題点を整理する必要があると思う。しかし今回、形を変えて残すということであったとしても、5、10年…という中長期的に見ると、様々な事業展開や運営の工夫を凝らしたとしても、そもそも津田青楓を知る人が減少するのは明白で、確実に存続は難しくなる。市としては、今回のある意味での延長期間の間に“仕舞う”ための確実なロードマップを作っていくのが肝要ではないかと思う。

(4) 一宮町内の別の場所で青楓美術館として存続。

(5) 11月8日の報告から、地元関係者の強い想いは伝わってくる。しかし、来館者アンケートの回答である9・10の意見は、あまりに高評価すぎ、客観的な評価とは私には思えない。アンケートに答えている人が、ごく限られた人たちであったのかもしれない。私自身も見学させて頂いたが、青楓という画家についての特別な想いも、知識もない者からすれば、この美術館の何処を評価して良いか分からないというのが偽らざる心境である。あのアンケートの極めて高い評価とのズレを感じる。

一方、入館者数をみると、この状況では大健闘している、と評価できる。まさに地元の人々の熱意により、結果として多くの人が足を運んでいるということだろう。この熱意はしっかりと受け止めるべきで、老朽化や法律上の問題から現状のままの運営が困難とするなら、旧一宮町内の別の場所に移転し、「市立美術館」として青楓以外の本市にゆかりある作家の作品も収集展示すべきと考える。

(6) 一宮町内に限定せず、「市立美術館」として整備、石和のみんなの広場が適地。

(7) 周辺の畑地も使い、現在の場所で改修。

現在のロケーションと小さな可愛らしい美術館の雰囲気素敵だった。ぶどう畑の美術館として根強い人気もあり、現在も様々なイベント等をしている。

(8) 施設の老朽化が目立ち展示スペースも狭い。「市立美術館」として整備し、津田青楓常設展のコーナーを設けるとともに他笛吹市出身者の作品も展示し整備できれば素晴らしいと考える。

講演会等のイベントを催せるスペースが必要と考える。

美術館建設場所は、アクセスが良く農業遺産との相関が見られる場所が適当と考えられる。

(9) 一宮町内の別の場所で、「青楓美術館」として存続することが望ましい。

青楓美術館は、笛吹市出身の小池唯則氏が私財を投じて開館した美術館です。小池唯則氏がいなければ、津田青楓を知ることはできなかったでしょう。したがって、青楓美術館は存続すべきだと考えます。

しかし、現在の美術館は立地条件が良くないことや老朽化、そして少し狭いという課題があります。この点を踏まえて、青楓美術館の外観を維持しつつ、建物を改修・増築することを提案します。さらに、魅力ある企画展を増やすことで、多くの人々にこの素晴らしい文化遺産を知っていただけると考えます。

(10) 趣のある魅力的な美術館ではあるが、規模が小さく所蔵している青楓作品が十分に展示できないことやアクセス道路及び駐車場が不十分であることから、有効に施設を機能させるためには、現在の場所での存続は難しい。

移転するのであれば、市立美術館として青楓作品に特化した常設展示とともに、市が所蔵する他の美術作品等の公開や企画展ができる機能を併設した施設整備が望まれる。

(11) 青楓美術館は、現在の場所のロケーションがよく、展示作品も素晴らしい。しかし、その作品を多くの皆様に見ていただくためには、アクセスや施設の老朽化などの課題がある。

関係者の想いも強いことから、施設は一宮町内に限定し、より多くの方に鑑賞していただけるよう、別の場所で青楓美術館として存続させることが望ましい。

2 八代郷土館

(1) 民具を春日居郷土館に集約し、体験や史跡巡りの拠点、案内所として利用することが望ましい。

(2) 豊富な収蔵資料と、旧大森銀行の屋敷を活かした建物・環境は魅力的。旧大森銀行の屋敷を活かし、かつ展示施設として整備するのは大変難しいので、資料の保管は春日居郷土館に一部を集約するなどし、民具を活用した体験などができる施設として活用することもできるのではないか。なお、体験イベントなどにボランティアガイドを導入することも可能か。

(3) 基本的には、ボランティアを活用した運営をするよう考える。そもそも建物自体の価値を考えると、他の施設とは一線を画す。また、建物+民具として非常に興味深いものがあるため、展示を見てもらうというよりは、実際の民具を使い「むかし暮らし体験」ができる場を目指すという新しい方向性が見いだせるように思う。同じものがいくつもあるという話もあったが、それを逆手にとって実物で、千歯こぎで脱穀をする、竈で火を炊く、縄を抛る…等々、民具+体験に重点を置いた施設の在り方にするすることで、大人から子供まで楽しみながら学ぶことができるのではないかと思う。

(4) イベントでの活用、市民への貸出し。ボランティアガイドを活用した運営。

(5) まず建物の耐震を含めた修理が必要。その上で、市域全体の民具・民俗に特化した展示をすることとして、明確にすべきである。さらに仮設や隣接の土蔵の収蔵庫も整備し、常設展示品の補完資料として保存すべきである。さらに映像資料を充実させ、その使用方法や時期などについても常に視聴可能な状態にすべきである。常駐の解説員（可能なら学芸員）を配した、「市立博物館・民具館」となることが望ましい。

(6) 石和、八代、境川3町の民具、民俗の展示。

和室を利用し、茶道、和楽器演奏、生花、着付け等の練習の場として利用。

(7) 市域全体の民具・民俗に特化した展示

市全体の民具・民俗をきちんと整備して、残すものを明確にしたい。

郷土館の建物を活かし、訪れた人が懐かしさと同時に歴史や先人の知恵を学べる展示を行う。

(8) 展示物をみてもただ詰め込んでいるだけで、それぞれのコーナーがあり説

明できる呈をなしているとは考えづらい。春日居郷土館が「市立博物館」に集約できれば素晴らしい。

(9) 民具を春日居郷土館に集約し、体験や史跡巡りの拠点、案内所として利用、ボランティアガイドを活用し、イベントでの活用、市民等への貸出しを行うことが望ましい。

八代郷土館は、明治18年に建設された大二階建て入母屋造りの非常に大きく立派な建物です。展示物を春日居郷土館に集約し、建物自体は保存するとともに、市民に貸出し可能な施設として活用することを提案いたします。例えば、カフェや手作りマルシェなどのイベントスペースとして利用することが考えられます。

(10) アクセス道路や駐車場の課題もあるが、移転は困難な施設。

所蔵している多くの民具や民俗資料は、市内の他施設で所蔵しているものと合わせて整理し、昔の庶民の暮らしが実感できるような魅力ある展示が必要。

八代郷土館の建物を民俗資料館として、補強工事、安全対策、展示照明等の整備を行ったうえで、所蔵品を系統的に整理し展示することで、建物の趣と相まって更に展示効果が上がるのではないかと。

旧石原家住宅は、もっと昔の生活感が伝わる展示の工夫が必要。

収蔵庫のプレハブの撤去や公園的緑地など周辺一帯の整理、整備が必要。

(11) 耐震化を実施し、建物を活かした民具・民俗に特化した郷土館として整備する。

隣地を買収し、その土地に民具等を保管する倉庫及び駐車場を整備して活用することを検討する。

3 春日居郷土館・小川正子記念館

(1) 八代郷土館の民具を含め、市域全体の歴史・民俗・文化等を展示する市立博物館として、増築も視野に入れた整備をすることが望ましい。

(2) 現状で、展示室と収蔵庫を備えた博物館施設は本館のみ。したがって、市立博物館として市域全体の歴史・民俗・文化等を展示する施設として拡充し、増築も視野に入れての整備が将来的な展望という視野からも望ましいと思う。ただ、現在の郷土館・記念館の一部として他の施設を移設することは、現在の施設の機能を制限・減少させることになるので、増築・改修を前提とするのが望ましい。

(3) 民具・民俗を除く、市域全体の歴史・文化等を展示する市立博物館として、増築も視野に整備するというのが理想的である。施設としては、現在よりも広いスペースが必要だとは思いますが、もう少しコンセプトを絞る必要があるだろうと思う。古代寺院～国分寺というのは県内唯一の存在であり、それだけでも十分に価値があるので、そこにフォーカスするなどただ漫然と縄文時代～弥生時代…と並べても、言い方は悪いがどこにでもある歴史になってしまう。財政的にハード面での整備が難しいようであれば、人材の確保などソフト面を強化していくことが必要だと思う。

(4) 小川正子展示物は、小川正子療養の家で展示。

常設展示が通年行える整備。

(5) これは方向性がはっきりしている。民具・民俗を除く、市域全体の歴史・文化等を展示する「市立博物館」として整備すべきである。ただし、現状では、スペースがあまりにも小さく、小手先ではない根本的なリニューアルと増築が必要である。常設展と特別展を同時に企画展示できるスペースを確保し、かつ現状の展示室も動線を明確にするための壁を設置した展示室に変えなければならない。

財政的にもほぼ同規模である南アルプス市は、充実した展示と職員体制を敷いている。本市には、山梨県の中でも群を抜いて歴史的資源が集中しているが、残念ながら、それがほとんど活かされていないと言わざるを得ない。もっとも、もともと春日居町の郷土館としてスタートしているので、現在の状況はやむを得ないのであるが。

本市より遥かに規模の小さい自治体でも20～30億円程度の予算規模で博物館建設が検討されているとも聞く。本市に集中する歴史資料は、ほぼ山梨県の通史そのものであり、山梨県内では本市以外はしたくてもできない展示なのである。

甲斐国分寺の整備も進んでおり、そのメイン展示は否応なくここで行うことになると考えられるし、本市には、全国的に知られる縄文や古墳の資料に加え、甲斐国府や甲斐路など古代に関する資料も含めてふんだんに資料があるので、その意味からも通史的な展示を行う義務がある。

観光地である本市には宿泊する観光客も多く、まさに本市のみならず山梨県の「通史的な展示」は観光資源としても充分活用できるものである。

小川正子記念館については、さらに資料収集を進めると同時に、もう一人のハンセン病患者救済の偉人、綱脇龍妙氏の資料も併せて紹介できれば、さらに展示が充実し、来場者の理解も深まるだろうと考える。

(6) 春日居、御坂、一宮3町の民俗資料館として活用。展示場所の確保のため、一部増築が必要。周辺の畑地も使い、現在の場所で改修。

(7) 民具・民俗を除く、市域全体の歴史、文化等を展示する市立博物館として整備。

郷土館は、市立博物館として笛吹市全体の歴史・文化を学べるような施設として整備。内容や展示方法などを工夫し魅力的なものにしたい。

小川正子記念館内の展示物は、小川正子療養の家で展示。

小川正子記念館の展示物は、療養の家もしくは、その周辺に増築して展示。

(8) 増築が可能なら「市立博物館」として、市全域の歴史・文化・民俗学等の常設展示とハンセン病と関わる小川正子さん、その他の偉人のコーナーが展示でき、講演会・特別展が行えるスペースがあればよいと考える。

(9) 八代郷土館の民具を含め、市域全体の歴史、民俗、文化等を展示する市立博物館として、常設展示が通年行えるよう、増築も視野に整備することが望ましい。

春日居町には、古代甲斐国の行政機関があったと考えられています。笛吹市には多くの歴史的な場所があり、郷土館はこれらの基本情報を得るのに役立ちます。もっと笛吹市の歴史をアピールしてほしい。

(10) 各施設に特色を持たせ、差別化を図るうえでは、青楓美術館、八代郷土館の整備方針及び釈迦堂遺跡博物館の役割を鑑みると当施設の位置付けが限定的になる。

現状では、市内の文化（展示）施設として最も充実しており、その中核となっていることから、当面は当施設を効果的に活用しつつ、青楓美術館、八代郷土館の整備方針によって位置付けが決まってくるのではないかと考える。

・小川正子記念館は、その功績等に鑑み、前述同様当面は現状の展示を維持しながら活用の促進を図る。

(11) 市が収蔵する本市の偉人やゆかりの芸術家の美術品も展示ができ、民具・民俗を除く、市域全体の歴史、文化等を展示する市立博物館として整備

4 旧小林家土蔵

(1) カフェとして利用又は本市の偉人を紹介する施設としての利用が望ましい。

(2) 遠距離バス停のそばなどの立地を活かし、カフェとしての利用も可能。建物の由来から、本市の偉人を紹介する施設としての活用も可能と思われるが、春日居郷土館を市立博物館として拡充していく可能性があるのであれば、そこに集約していく方向が良いと思われる。

(3) カフェとして利用したいが、整備にどの程度経費がかかるかによる。また、単純なカフェというよりは、いわゆるおしゃれな古民家カフェでありながら市の文化施設の情報発信を行えるような複合的なものを目指してほしい。また、足湯とのつながりを持たせるため、建物の前にはパラソルなどもあり、屋外でもコーヒーを楽しめたりすることで賑わいを創出できる要素を感じる。

(4) 本市の偉人を紹介する施設整備。

(5) 店舗として活用。ただし、カフェは難しい。味噌、醤油、漬物、酒類等の土産品主体とした店舗。

(6) 本市の偉人を紹介する施設整備

とても良い場所なので、本市の偉人を紹介する施設とするのがよい。

マップなどを用意し、(例えば、早川徳次→早川家住宅 というように)市内を巡るきっかけとなる案内所のような場所にする。

(7) 地理的利点を考え、笛吹市土産物店、カフェ等活用可能。

(8) 本市の偉人を紹介するカフェとして利用することが望ましい。

老朽化は否めませんが、修繕して本市の偉人を紹介する施設内のカフェとして活用し、観光施設の一つとして利用できるようにしていただきたいです。

(9) 建物の外観を残し、文化施設としてではなく他の有効的な目的に転用してもよい。

施設の収蔵物は、市内の他施設で所蔵している物と合わせて整理し、八代郷土館で展示する。

(10) 小林家にゆかりのあるものを残し、カフェ等に活用する。

5 全体として

(1) これらの施設に、これまで一度も足を運んだことのない市民が相当数存在すると思われ、市民レベルでの意識調査なども必要なのではないか。

一般論として、博物館施設はその他の歴史・民俗・芸能などを中心に、美術・文学などその地にゆかりある芸術作品の展示や解説を行う施設である。現在では、それらを最大限に用いた街造りを行っているところも数多くあり、まさに地域の特色を示す施設である。だからこそ、その地域の人がまず自分の地域を知り、愛着と誇りを以て生活すると同時に、初めてその地を訪れる人は、そこに足を運ぶことで地域に魅力を感じ、さらにリピーターとなって再訪していただけるのである。

意見を踏まえた整備方針（案）の検討について

1 文化施設全体の在り方

文化施設は、市の貴重な財産である文化財を適切に保存し、次世代へ継承するとともに、積極的に公開・活用することで、広く市民が文化財に親しみ、その価値への理解を深めるためにある。同時に、大切な観光資源でもあり、観光振興や地域振興などにも寄与する。

学校教育においても、優れた文化・芸術に触れることで、児童生徒の豊かな心と郷土愛を育むことに寄与する。

各文化施設の展示については、各施設に特色を持たせ、差別化を図る。

2 整備方針（案）

(1) 青楓美術館

- ア 周辺の畑地も活用し、現在の場所で青楓美術館として改修
- イ 一宮町内の別の場所で、「青楓美術館」として存続
- ウ 一宮町内の別の場所で、津田青楓作品のほか、本市の偉人やゆかりのある芸術家の作品を展示する「市立美術館」として整備
- エ 一宮町内に限定せず、津田青楓作品のほか、本市の偉人やゆかりのある芸術家の作品を展示する「市立美術館」として整備

(2) 八代郷土館

- ア 市域全体の民具・民俗に特化した展示
- イ 建物を活かし、ボランティアガイドを活用して、実際に民具を使用した体験に重点を置いた施設
(いずれも展示品の整理が必要)
(建物の耐震化を検討)
(隣地について、民具等を保管する倉庫及び駐車場に整備して活用することを検討)
- ウ イベントや市民への貸出しに利用する施設

(3) 春日居郷土館・小川正子記念館

- ア 八代郷土館の民具を含め、市域全体の歴史、民俗、文化等を展示する市立博物館として整備
- イ 民具・民俗は八代郷土館に集約し、市域全体の歴史、文化等を展示する市立博物館として整備
- ウ 市が収蔵する本市の偉人やゆかりの芸術家の美術品も展示ができ、民具・民俗を除く、市域全体の歴史、文化等を展示する市立博物館として整備
(小川正子記念館内の展示物は、小川正子療養の家を活用して展示)
(常設展示が通年行えるよう増築を視野に整備する)

(4) 旧小林家土蔵

- ア カフェとしての利用
- イ 本市の偉人を紹介する施設整備
- ウ 小林家にゆかりのあるものを残し、カフェ等に活用

文化施設の整備方針パターン図

	青楓美術館	八代郷土館	春日居郷土館 小川正子記念館	旧小林家土蔵	パターンにおける課題
1	イ 単独 一宮町内で青楓美術館	ア、イ 民具に特化 (体験型、ボランティア利用)	イ、ウ 民具を除く、市立博物館 (美術品も検討)	ア、ウ カフェ イ 本市の偉人を紹介する施設	・市所有美術品の展示 ・青楓美術館として運営の継続性
2	イ 単独 一宮町内で青楓美術館	ウ イベントでの活用	ア 民具を含む市立博物館		・青楓美術館として運営の継続性 ・春日居郷土館のスペース
3	ウ、エ 市立美術館 (一宮町内、町外検討)	ウ イベントでの活用	ア 民具を含む市立博物館		・市立美術館としての運営 ・春日居郷土館のスペース
4	ウ、エ 市立美術館 (一宮町内、町外検討)	ア、イ 民具に特化 (体験型、ボランティア利用)	イ 民具を除く、市立博物館		・市立美術館としての運営
各施設の課題	・施設の確保	・運営方法 (民間、ボランティア活用)	・施設の増築	・事業手法 ・運営方法	

縄文に関する展示は、
釈迦堂遺跡博物館へ

笛吹市所有の美術品について

平成26年度の調査により文化財課で把握している笛吹市所有の美術品 320点

	点数	備考
所有美術品で展示されていないもの (美術館での展示が可能なもの)	190	
市内の施設で展示中の美術品	64	
友好都市首長の揮毫・複製品・作者不明など展示に支障があるもの	66	
合計	320	

作者	特徴	点数	展示可能	展示中	展示不可
高野史静	<p>明治41年(1908)、笛吹市御坂町で生まれる。大阪美術学院にて日本画を学び、矢野橋村(きょうそん)に教わる。</p> <p>日本南画院(なんがいん)に所属し、四国の吉(よし)野(の)川(の)石(の)を顔料にして独自の画風を確立した。</p> <p>南画院展にて院賞、会長賞等を数多く受賞する。</p> <p>日本墨彩画院創立者・日本石画協会主宰・日本南画院理事等を歴任する。</p>	65	65	0	0
横尾木雞	<p>明治36年(1903)、笛吹市御坂町で生まれる。大正10年(1921)、川端(かわばた)玉(ぎよく)章(しょう)主宰の川端画学校に入学し、在学中に速水(はやみ)御舟(ぎよしゅう)と知り合いになり、内弟子になる。</p> <p>昭和3年(1928)日本美術院研究会員に推薦され、同年日本美術院展に『青田』が入選、翌年には『ひまわり』が再度入選した。</p> <p>その後、日本美術院展・中央美術院展等多数の展覧会に出品、また個展を開くなど活躍した。</p>	54	54	0	0
穴山勝堂	<p>明治23年(1890)、笛吹市御坂町で生まれる。東京美術学校在学中は洋画を学ぶが、松岡映(えい)丘(きゅう)に日本画を学び、日本画を描くようになる。</p> <p>大正10(1921)年、狩野光雅・遠藤教三らと新興大和絵会を結成する。</p> <p>昭和6年(1931)、第12回帝展で『夕映えの松』が特選になり、宮内省が買い上げた。第14回帝展でも特選に選ばれる。昭和13年(1938)には望月春江(しゅんこう)・川崎小虎らと日本画院を創設する。</p> <p>戦後は山梨県にもどる。</p>	15	12	3	0
石原益男	<p>明治41年(1908)、東八代郡錦村(現御坂町井之上)で生まれる。</p> <p>昭和2年(1927)から県内の公立小学校で勤務。</p> <p>昭和9年(1934)より東京都の公立小学校や青山学院大学緑岡小学校・日本女子大学豊明小学校で勤務。</p> <p>小学校の教師をしながら東京都美術館で行う大潮(だいちょう)展に日本アルプスやハケ岳などを描いた洋画を出品した。</p> <p>また昭和44年(1969)には編集にかかわった「図画と工作」が出版された。</p>	14	14	0	0
半田強	<p>昭和23年(1948)に石和町に生まれる。</p> <p>独学で油彩画を学び昭和45年(1970)に国展に初出品で初入賞する。</p> <p>以降、国展に出品し続けて昭和52年(1977)にプールビー賞を受賞、昭和57年(1982)に国画会会員となる。</p> <p>昭和59年(1984)に第1回山梨県新人選抜展で県立美術館賞大賞を受賞。</p> <p>平成29年(2017)に笛吹市スコレーセンター30周年記念事業として「半田強展」を開催。</p>	7	1	6	0

笛吹市が所有する美術品の主な作家

作者	特徴	点数	展示可能	展示中	展示不可
宮本和郎	昭和11年(1936)、東京で生まれる。東京芸術大学日本画科卒業。 日本美術家連盟・日本美術会・美術家平和会議会員。日本高山植物保護協会会員。 山梨県立美術館、南アルプス芦安山岳館、ギャラリーさかいがわほか、東京・山形・群馬・愛知・大阪などで企画展・個展を約30回開催。 境川にアトリエをかまえ、平成21年(2009)に春日居郷土館で「宮本和郎日本画展」を開催。	7	4	3	0
雨宮 喜能登	硝子の粉末を調合し、硝子の上に色をつけてから窯に入れて低温で焼き上げる硝子工芸品(窯(よう)彩(さい)硝子)の作家。 窯彩硝子の技法は日本では雨宮喜能登氏のみが行っている。	4	3	1	0
桑原福保	明治40年(1907)、境川町で生まれる。 昭和2年(1927)、山梨県師範(しはん)学校(現在の山梨大学)を卒業。昭和13年(1938)、第2回新文展に『老人と子供』が入選。昭和15年(1940)、紀元二千六百年奉祝美術展に『老農婦』が入選する。 昭和33(1958)年よりアメリカ・フランス・イタリア・オランダ・イギリス・スペイン等を訪れ、『パリの裏町』・『ランス本寺』等の作品を発表する。	3	2	1	0
萩原英雄	大正2年(1913)に甲府市相生町に生まれる。 昭和9年(1934)に東京美術学校油画科本科に進み、南薫造(くんぞう)の指導を受ける。 油彩や木版画のほか、水彩画、陶芸、ガラス絵、パステル、コラージュなどの作品も残している。 昭和37年(1962)、ルガノ国際版画ビエンナーレで「白の幻想」がグランプリを受賞。昭和54年(1974)から平成2年(1990)まで日本版画家協会理事長を務めた。	3	1	2	0
落合 豊彦	昭和17年(1942)に境川村で生まれる。 山梨県造形美術会会員。 自ら考案した春日釉(ゆう)というピンクや薄緑色の釉薬(ゆうやく)を施した花器などを作成している。 第34回現代工芸美術展で現代工芸賞を受賞。	2	2	0	0
桑原 浜子	明治45年(1912)、東京都で生まれる。昭和5年(1930)に工芸家矢崎好幸氏の研究所で卵殻モザイクを習得。昭和8年(1933)に帝国美術工芸学校で日本画を学ぶ。昭和52年(1977)よりモザイク研究会を主宰し、昭和62年(1987)にはロサンゼルスで個展を開催。以降、各地で個展を開催した。 境川にアトリエをかまえ、平成23年(2011)に八代郷土館で「卵殻モザイク絵画展」を開催。	2	2	0	0

笛吹市が所有する美術品の主な作家

作者	特徴	点数	展示可能	展示中	展示不可
平岡 陶進	備前焼の陶芸家。 神奈川県逗子市に工房を構え陶芸教室を行い、笛吹市境川に登り窯を持つ。 平成9年(1997)に山梨県立美術館で「平岡陶進作陶展」を開催。	2	2	0	0
井伏 圭介	昭和5年(1930)に作家井伏(いぶせ)鱒(ます)二(じ)の息子として東京都に生まれる。 遠藤銚司(けいじ)、海野建夫、三上猛夫に金工を学び、香炉(こうろ)などを作成した。	1	1	0	0
戸潤 幸夫	昭和27年(1952)、石川県七尾市に生れる 昭和51年(1976)、多摩美術大学油画科卒業。 山梨県で教職に就き、その傍らで絵画制作を行う。 平成16年(2004)に県立新潟女子短期大学教授となる。翌年、『ニューヨークは語る』が第76回第一美術展会員最高賞第一美術協会賞を受賞。 平成24年(2012)に春日居郷土館で「戸潤幸夫絵画展」を開催。	1	1	0	0
根来 茂昌	大正14年(1925)に大阪で生まれる。昭和28年(1953)に武蔵野美術学校彫刻科卒業。昭和46年(1971)に『砂鉄(さてつ)姥(うば)口(くち)釜(かま)』で伝統工芸新作展奨励賞を受賞。昭和55年(1980)に日本橋三越で個展を開催し、「茶の湯釜」を発行。 平成2年(1990)に紫綬(しじゆ)褒章(ほうしょう)を受章。	1	1	0	0
野中 春甫	昭和9年(1934)年に岐阜県土岐市で生まれる。 神奈川県美術展で特選を授賞し、日本陶芸展で入選している陶芸家。 日本橋三越本店・新宿小田急などで個展を開催。	1	1	0	0
橋本守男	昭和11年(1936)、栃木県壬生(みぶ)町で生まれる。 若山八十(やそう)氏(じ)・牛島憲之(のりゆき)先生に絵画を学び、読売アンダパンダン展等に出品。 さがみ美術協会展で大賞・市長賞・市議会議長賞等を受賞。 現在は境川町大黒坂に住む。 社団法人日本美術家連盟会員・山梨美術協会会員。	1	0	1	0

笛吹市が所有する美術品の主な作家

番号	作者	作品名	種類	仕様	作品の大きさ	施設名	保管又は展示場所	展示中	備考
1	穴山勝堂	溪声		軸装		学びの杜御坂	学びの杜		
2	穴山勝堂	霊峰清晨		額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
3	穴山勝堂	疾走する貨物車		額装		学びの杜御坂	学びの杜		
4	穴山勝堂	青蚊張		額装	120～130号	学びの杜御坂	学びの杜		
5	穴山勝堂	霊峰		額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
6	穴山勝堂	秋の富士		額装	30号	学びの杜御坂	学びの杜		
7	穴山勝堂	磯の松風		軸装	長尺	学びの杜御坂	学びの杜		
8	穴山勝堂	春溪		軸装	長尺	学びの杜御坂	学びの杜		
9	穴山勝堂	海辺秋色		軸装	半拙	学びの杜御坂	学びの杜		
10	穴山勝堂	富士	版画	額装		学びの杜御坂	学びの杜		
11	穴山勝堂	富士と河口湖	版画	額装		学びの杜御坂	学びの杜		
12	穴山勝堂	猿橋		軸装		学びの杜御坂	学びの杜		復刻印刷
13	雨宮 喜能登	白馬唐草紋	工芸	窯彩ガラス	30×30	境川総合会館	境川総合会館		
14	雨宮 喜能登	コブシ金彩図	工芸	窯彩ガラス	30×30	境川総合会館	境川総合会館		
15	雨宮 喜能登	トレイ	工芸	窯彩ガラス	30×30	境川総合会館	境川総合会館		
16	石原益男	スイスアルプス(A)		額装	100	学びの杜御坂	学びの杜		
17	石原益男	スイスアルプス(B)		額装	100	学びの杜御坂	学びの杜		
18	石原益男	スイスアルプス(C)		額装	100	学びの杜御坂	学びの杜		
19	石原益男	日本アルプス槍ヶ岳		額装	100	学びの杜御坂	学びの杜		

市所有美術品で展示されていないもの

番号	作者	作品名	種類	仕様	作品の大きさ	施設名	保管又は展示場所	展示中	備考
20	石原益男	日本アルプス槍ヶ岳		額装	100	学びの杜御坂	学びの杜		
21	石原益男	八ヶ岳主峯赤岳		額装	100	学びの杜御坂	学びの杜		
22	石原益男	日本アルプス北穂		額装	100	学びの杜御坂	学びの杜		
23	石原益男	八ヶ岳		額装	100	学びの杜御坂	学びの杜		
24	石原益男	日本アルプス穂高		額装	100	学びの杜御坂	学びの杜		
25	石原益男	日本アルプス奥穂高		額装	100	学びの杜御坂	学びの杜		
26	石原益男	日本アルプス槍穂高		額装	100	学びの杜御坂	学びの杜		
27	石原益男	日本アルプス槍穂高		額装	100	学びの杜御坂	学びの杜		
28	石原益男	日本アルプス槍穂高		額装	100	学びの杜御坂	学びの杜		
29	石原益男	日本アルプス槍穂高		額装	80	学びの杜御坂	学びの杜		
30	井伏 圭介	黄銅古代紋香炉	金工		9×9×H12	境川総合会館	境川総合会館		布目象嵌
31	落合 豊彦	花瓶	陶芸		23×23×H46	境川総合会館	境川総合会館		春日釉
32	落合 豊彦	花生	陶芸		24×24×H46	境川総合会館	境川総合会館		春日釉
33	風間繁樹	静物(人形)	油彩	額装	680*610	本館	経営企画課倉庫保管		
34	河内 薫	富士山の冬	写真	額装	57×75	境川総合会館	境川総合会館		モノクロ
35	河内 薫	富士山	写真	額装	88×120	境川総合会館	境川総合会館		モノクロ
36	河内 薫	坊ヶ峯	写真	額装	58×75	境川総合会館	境川総合会館		モノクロ
37	河村重造	風景	油彩	額装	450*500	本館	経営企画課倉庫保管		
38	河村重造	(壺を載せる馬)	油彩	額装	1070*1330	本館	経営企画課倉庫保管		

市所有美術品で展示されていないもの

番号	作者	作品名	種類	仕様	作品の大きさ	施設名	保管又は展示場所	展示中	備考
39	北沢 勉(石和写真美術館)	霊峰富士	写真	額装	1075*2070	本館	経営企画課倉庫保管		
40	倉田三郎	湯の湖風景	洋画	額装	6号	一宮支所	2階応接室倉庫		
41	桑原 浜子	桔梗と女郎花	卵殻モザイク	額装	45×42	境川総合会館	境川総合会館		
42	桑原 浜子	ほおづき	卵殻モザイク	額装	30.5×37.5	境川総合会館	境川総合会館		
43	桑原福保	炭を運ぶ	絵画	額装		境川総合会館	境川総合会館		油彩
44	桑原福保	甲斐の八ヶ岳遠景	絵画	額装		境川総合会館	境川総合会館		油彩
45	小林 那津子	藤壘の滝	絵	額装	41×38	境川総合会館	境川総合会館		切り絵
46	篠原豊蔵	四重塔	絵画	額装		境川総合会館	境川総合会館		彫り絵
47	仁野信平	甲州菊ヶ島	絵図	額装	370*967	本館	経営企画課倉庫保管		
48	瀬戸晶承	雨後の富士	日本画	額装	930*1120	本館	経営企画課倉庫保管		
49	高野史静	赤不岳	石画	額装	100号	学びの杜御坂	学びの杜		
50	高野史静	祖谷の春を待つ	表具	額装	100号	学びの杜御坂	学びの杜		
51	高野史静	長春図	石画	額装	30号	学びの杜御坂	学びの杜		
52	高野史静	富岳初秋	石画	額装	30号	学びの杜御坂	学びの杜		
53	高野史静	土佐の樽滝	石画	額装	30号	学びの杜御坂	学びの杜		
54	高野史静	黒部峡	石画	額装	30号	学びの杜御坂	学びの杜		
55	高野史静	白紅梅	石画	額装	30号	学びの杜御坂	学びの杜		
56	高野史静	秋八岳高原図	石画	額装	30号	学びの杜御坂	学びの杜		
57	高野史静	槍岳の晩秋	石画	額装	25号	学びの杜御坂	学びの杜		

市所有美術品で展示されていないもの

番号	作者	作品名	種類	仕様	作品の大きさ	施設名	保管又は展示場所	展示中	備考
58	高野史静	土佐石鎚山の雪	石画	額装	25号	学びの杜御坂	学びの杜		
59	高野史静	波に鶺鴒	石画	額装	25号	学びの杜御坂	学びの杜		
60	高野史静	赤富岳	石画	額装	25号	学びの杜御坂	学びの杜		
61	高野史静	八ツ岳の秋	石画	額装	25号	学びの杜御坂	学びの杜		
62	高野史静	嶺北山村風景	水墨画	額装	25号	学びの杜御坂	学びの杜		
63	高野史静	暁の不岳	水墨画	額装	25号	学びの杜御坂	学びの杜		
64	高野史静	土佐の山暁	水墨画	額装	25号	学びの杜御坂	学びの杜		
65	高野史静	暁色不岳	石画	額装	25号	学びの杜御坂	学びの杜		
66	高野史静	赤不岳	石画	額装	20号	学びの杜御坂	学びの杜		
67	高野史静	石鎚山	石画	額装	20号	学びの杜御坂	学びの杜		
68	高野史静	海が岡になった	石画	額装	20号	学びの杜御坂	学びの杜		
69	高野史静	春の不岳(桜)	石画	額装	20号	学びの杜御坂	学びの杜		
70	高野史静	梓川の夏	石画	額装	20号	学びの杜御坂	学びの杜		
71	高野史静	青の洞門	石画	額装	20号	学びの杜御坂	学びの杜		
72	高野史静	石佛	石画	額装	20号	学びの杜御坂	学びの杜		
73	高野史静	白糸の滝	石画	額装	20号	学びの杜御坂	学びの杜		
74	高野史静	白髪山白骨林	石画	額装	20号	学びの杜御坂	学びの杜		
75	高野史静	赤不岳	石画	額装	15号	学びの杜御坂	学びの杜		
76	高野史静	裸婦	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		

市所有美術品で展示されていないもの

番号	作者	作品名	種類	仕様	作品の大きさ	施設名	保管又は展示場所	展示中	備考
77	高野史静	湯上がりりの婦人	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
78	高野史静	北国の子供	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
79	高野史静	庭の梅	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
80	高野史静	朝の海	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
81	高野史静	初冬の不岳	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
82	高野史静	初冬の不岳	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
83	高野史静	暁の不岳	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
84	高野史静	西山初春	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
85	高野史静	長野の風景	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
86	高野史静	長 春	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
87	高野史静	東北の秋	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
88	高野史静	土佐の山	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
89	高野史静	土佐の秋	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
90	高野史静	冬の石鎚山	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
91	高野史静	早春の不岳	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
92	高野史静	春初め不岳	石画	額装	10号	学びの杜御坂	学びの杜		
93	高野史静	大八洲不岳	石画	額装	横額	学びの杜御坂	学びの杜		
94	高野史静	土佐の秋	石画	額装	横額	学びの杜御坂	学びの杜		
95	高野史静	水墨大八洲	水墨画	額装	横額	学びの杜御坂	学びの杜		

市所有美術品で展示されていないもの

番号	作者	作品名	種類	仕様	作品の大きさ	施設名	保管又は展示場所	展示中	備考
96	高野史静	桜と不岳	石画	額装	横額	学びの杜御坂	学びの杜		
97	高野史静	長春一双	屏風		計400	学びの杜御坂	学びの杜		
98	高野史静	愛媛大関門	屏風		200	学びの杜御坂	学びの杜		
99	高野史静	土佐の山	屏風		200	学びの杜御坂	学びの杜		
100	高野史静	朝光	屏風		200	学びの杜御坂	学びの杜		
101	高野史静	白竜峡	石画	額装	100	学びの杜御坂	学びの杜		
102	高野史静	農家の春	表具	額装	100	学びの杜御坂	学びの杜		
103	高野史静	赤壁遊舟の図	表具	額装	50	学びの杜御坂	学びの杜		水墨画
104	高野史静	山中訪友の図	表具	額装	50	学びの杜御坂	学びの杜		水墨画
105	高野史静	老松双鶴の図	石画	額装	横物	学びの杜御坂	学びの杜		
106	高野史静	猛虎の図	表具	額装	横物	学びの杜御坂	学びの杜		
107	高野史静	青緑山水松竹梅図	表具	額装	20	学びの杜御坂	学びの杜		水墨画
108	高野史静	歎瀑の図	表具	額装	20	学びの杜御坂	学びの杜		水墨画
109	高野史静	逢来山青緑	表具	額装	30	学びの杜御坂	学びの杜		
110	高野史静	ボタン	屏風			学びの杜御坂	学びの杜		水墨画
111	高野史静	竹林	屏風			学びの杜御坂	学びの杜		
112	高野史静	不明	絵画	額装	112*94	御坂農村センター	農村環境改善センター		学びの杜御坂に移動
113	高野史静	霧の森	絵画	額装	170*236	御坂農村センター	農村環境改善センター		学びの杜御坂に移動
114	田辺武夫	不明	洋画	額装	43×52	一宮支所	2階応接室倉庫		

市所有美術品で展示されていないもの

番号	作者	作品名	種類	仕様	作品の大きさ	施設名	保管又は展示場所	展示中	備考
115	角田美佐男	坊ヶ峯展望(小黑坂より)	絵画	額装	82×95	境川総合会館	境川総合会館		油彩
116	角田美佐男	金比羅山展望(帯石より)	絵画	額装	82×95	境川総合会館	境川総合会館		油彩
117	角田美佐男	大黒坂 聖応寺	絵画	額装		境川総合会館	境川総合会館		油彩
118	戸潤 幸夫	バルセロナ・ヨットハーバーにて	油絵	額装	80号 145.5cm×112.1cm	春日居郷土館	郷土館収蔵庫		ロビー壁面に飾る予定
119	富沢 平和	広河原への道	絵画	額装	92×110	境川総合会館	境川総合会館		油彩
120	富沢 平和	牡丹	絵画	額装	73×66	境川総合会館	境川総合会館		油彩
121	根来 茂昌	唐銅鶴首花生	金工		直径21cm	境川総合会館	境川総合会館		
122	野中 春甫	青白磁大皿	陶芸		45×38	境川総合会館	境川総合会館		
123	萩原英雄	ギリシャ神話(一式36枚)	版画	額装		石和図書館	倉庫		
124	半田強	鳥の詩(鶉)	油絵	額装	30号	石和図書館	倉庫		
125	平岡 陶進	壺	陶芸		22×22×22	境川総合会館	境川総合会館		備前焼
126	平岡 陶進	大壺	陶芸		45×45×35	境川総合会館	境川総合会館		備前焼
127	星野 敦	富士昇雲	油彩	額装	500*650	本館	経営企画課倉庫保管		
128	堀 慎吉	星の棲むむら	絵画	額装		境川総合会館	境川総合会館		焼土
129	松観	(孔雀と松)	水墨・墨彩	額装	600*640	本館	経営企画課倉庫保管		
130	汀花	笛吹の春	ろうけつ染	額装	700*880	本館	経営企画課倉庫保管		
131	宮本和郎	兜造りの家古武者のごとく	日本画	額装	840*1100	本館	経営企画課倉庫保管		
132	宮本和郎	上芦川	日本画	額装	F30 90.9cm×72.7cm	春日居郷土館	郷土館収蔵庫		
133	宮本和郎	南アルプスが間近に見える頃(境川から)	絵画	額装		境川総合会館	境川総合会館		日本画

市所有美術品で展示されていないもの

番号	作者	作品名	種類	仕様	作品の大きさ	施設名	保管又は展示場所	展示中	備考
134	宮本和郎	ききょう	絵画	額装		境川総合会館	境川総合会館		日本画
135	横尾木雞	猫	紙本	額装	54.5*61.5	学びの杜御坂	学びの杜		
136	横尾木雞	朝 顔	絹本	額装	33.5*39.5	学びの杜御坂	学びの杜		
137	横尾木雞	木(冬の木)	紙本	額装	53*71.5	学びの杜御坂	学びの杜		
138	横尾木雞	ぼ け	絹本	額装	79*54.5	学びの杜御坂	学びの杜		
139	横尾木雞	スケッチ(木炭)	紙本	額装	47.5*63	学びの杜御坂	学びの杜		下絵
140	横尾木雞	竹 林	鳥の子紙	額装	139*181	学びの杜御坂	学びの杜		
141	横尾木雞	ゆ り	鳥の子紙	額装	168*123.5	学びの杜御坂	学びの杜		
142	横尾木雞	蜘 蛛	鳥の子紙	額装	183*137	学びの杜御坂	学びの杜		
143	横尾木雞	ひまわり	麻紙	額装	210*142	学びの杜御坂	学びの杜		
144	横尾木雞	民 家	絹本	額装	142*152	学びの杜御坂	学びの杜		
145	横尾木雞	麦 秋	鳥の子紙	額装	137*180	学びの杜御坂	学びの杜		
146	横尾木雞	朝 顔	鳥の子紙	額装	137*180	学びの杜御坂	学びの杜		
147	横尾木雞	かな	鳥の子紙	額装	136*181	学びの杜御坂	学びの杜		
148	横尾木雞	麦 秋(その2)	鳥の子紙	額装	138*183	学びの杜御坂	学びの杜		
149	横尾木雞	田園風景	絹本	額装	91*119	学びの杜御坂	学びの杜		
150	横尾木雞	山	絹本	額装	118*91	学びの杜御坂	学びの杜		点猫
151	横尾木雞	松	絹本	額装	88*76	学びの杜御坂	学びの杜		しみあり
152	横尾木雞	猿橋の景	絹本	額装	126*90	学びの杜御坂	学びの杜		

市所有美術品で展示されていないもの

番号	作者	作品名	種類	仕様	作品の大きさ	施設名	保管又は展示場所	展示中	備考
153	横尾木雞	猿橋の景(未完)	紙本	額装	126*95	学びの杜御坂	学びの杜		
154	横尾木雞	初春新景	紙本	額装	135*179	学びの杜御坂	学びの杜		しみあり
155	横尾木雞	赤モロコシ	紙本	額装	127*92	学びの杜御坂	学びの杜		
156	横尾木雞	田島が原秋景	紙本	額装	89*116	学びの杜御坂	学びの杜		
157	横尾木雞	あやめ	紙本	額装	92*95	学びの杜御坂	学びの杜		しみあり
158	横尾木雞	あやめ(未定)	紙本	額装	92*95	学びの杜御坂	学びの杜		
159	横尾木雞	黒竹(二折り屏風右)	紙本	額装	135*69.5	学びの杜御坂	学びの杜		
160	横尾木雞	黒竹(二折り屏風右)	紙本	額装	135*69.5	学びの杜御坂	学びの杜		
161	横尾木雞	松とねむの木	紙本	額装	180*89	学びの杜御坂	学びの杜		4枚綴り
162	横尾木雞	パステル画・松林	紙本	額装		学びの杜御坂	学びの杜		現状保存
163	横尾木雞	植 物	紙本	額装	49*66.5	学びの杜御坂	学びの杜		
164	横尾木雞	藤	紙本	額装	45*64	学びの杜御坂	学びの杜		
165	横尾木雞	鶏(破損)	紙本	額装		学びの杜御坂	学びの杜		
166	横尾木雞	桐林風景の下絵	紙本	額装	80*94.5	学びの杜御坂	学びの杜		
167	横尾木雞	藤棚	紙本	額装	173*88	学びの杜御坂	学びの杜		4枚綴り
168	横尾木雞	弁天島風景(下絵)	紙本	額装	85*157	学びの杜御坂	学びの杜		
169	横尾木雞	弁天島風景(本画)	紙本	額装	85*157	学びの杜御坂	学びの杜		
170	横尾木雞	さざんか	紙本	額装	183*89	学びの杜御坂	学びの杜		
171	横尾木雞	田舎の秋	パステル画	額装	47*66.5	学びの杜御坂	学びの杜		

市所有美術品で展示されていないもの

番号	作者	作品名	種類	仕様	作品の大きさ	施設名	保管又は展示場所	展示中	備考
172	横尾木雞	鶏(その2・)	紙本	額装	45*58	学びの杜御坂	学びの杜		現状保存
173	横尾木雞	しゃくやく		額装		学びの杜御坂	学びの杜		
174	横尾木雞	竹林(下絵)	紙本		139*184	学びの杜御坂	学びの杜		現状保存
175	横尾木雞	かんな(下絵)	紙本		136*181	学びの杜御坂	学びの杜		現状保存 2枚あり
176	横尾木雞	藤	絹本			学びの杜御坂	学びの杜		現状保存
177	横尾木雞	竹(1)	紙本		17.65*187.5	学びの杜御坂	学びの杜		現状保存 2枚あり
178	横尾木雞	竹(2)	絹本		178*186	学びの杜御坂	学びの杜		現状保存 2枚あり
179	横尾木雞	藤	屏風		179*180	学びの杜御坂	学びの杜		現状保存
180	横尾木雞	竹(1)	屏風		182*181.5	学びの杜御坂	学びの杜		現状保存
181	横尾木雞	竹(2)	屏風		182*182	学びの杜御坂	学びの杜		現状保存
182	横尾木雞	一雲	掛け軸			学びの杜御坂	学びの杜		現状保存
183	横尾木雞	よせがき	掛け軸			学びの杜御坂	学びの杜		現状保存
184	横尾木雞	パステル画色々				学びの杜御坂	学びの杜		現状保存
185	横尾木雞	学校中の写生				学びの杜御坂	学びの杜		現状保存
186	横尾木雞	写生および下絵				学びの杜御坂	学びの杜		現状保存
187	横尾木雞	色々の下絵				学びの杜御坂	学びの杜		現状保存
188	横尾木雞	下絵各種				学びの杜御坂	学びの杜		現状保存
189	魯 明子	静物	絵画	額装		境川総合会館	境川総合会館		油彩
190	渡辺昭雄	東尋坊	油彩	額装	1340*1680	本館	経営企画課倉庫保管		

市所有美術品で展示されていないもの

番号	作者	作品名	種類	仕様	作品の大きさ	施設名	保管又は展示場所	展示中	備考
1	アイヴァンド・アール	BLACK SPRUCE	シルクスクリーン	額装		桃の里文化館	ロビー壁面	○	H12.7.21 一宮役場に寄贈
2	穴山勝堂	桃源郷と富士	日本画	額装	30×42	一宮支所	2階応接室壁面	○	
3	穴山勝堂	富士と河口湖	木版画	額装	30×42	一宮支所	2階応接室壁面	○	H8発行
4	穴山勝堂	不明	日本画	額装	23×32	一宮支所	1階会議室壁面	○	
5	雨宮喜能登	ペルシャ紋入唐草模様	硝子	壺	44×35	八代支所	階段踊り場	○	
6	石山たえ子	秘境に咲く	油絵	額装	100号	桃の里文化館	ロビー壁面	○	
7	ヴェラ・マハト	カステル・サンダンジェロ他3点	油絵	額装		石和図書館	資料室	○	
8	内田一郎	肖像画穴山勝堂画伯	洋画	額装	10号	一宮支所	2階廊下壁面	○	
9	宇野さおり	子らの母となりて	油絵	額装	200×138(額)	春日居郷土館	郷土館ロビー	○	小川正子記念館壁面 開館に併せ本人に依頼
10	風間繁樹	不明	洋画	額装	55×44	一宮支所	2階応接室	○	
11	梶原 勝	裸体像	彫刻			芦川総合センター	総合センターロビー	○	ブロンズ
12	橘田静雄	藤壘の滝のミズバショウ	写真	額装	4号	境川支所	支所1F壁面	○	
13	桑原一良	風景	絵画	額装	6号	境川支所	支所2F通路壁面	○	油彩
14	桑原福保	老心	絵画	額装		境川総合会館	境川総合会館	○	油彩・麻布 第2回日展
15	弦間友安	おぼろ月夜	洋画	額装	90×63	一宮支所	1階西側壁面	○	S63.3作
16	弦間友安	藤の花	洋画	額装	89×64	一宮支所	2階会議室壁面	○	
17	弦間友安	不明	洋画	額装	64×89	一宮支所	2階会議室壁面	○	
18	小出ムツ(M.K)	不明	油絵	額装	8号	保健福祉館	石和保健福祉センター2階	○	
19	小出ムツ(M.K)	不明	水彩画	額装	8号	一宮福祉センター	一宮福祉センター	○	

市内の施設で展示中の美術作品

番号	作者	作品名	種類	仕様	作品の大きさ	施設名	保管又は展示場所	展示中	備考
20	小出ムツ(M.K)	不明	油絵	額装	25号	一宮福祉センター	一宮福祉センター	○	
21	河野双岑	晩秋	日本画	額装	100号	石和図書館	資料室入口壁面	○	
22	佐田 光	不明	洋画	額装	45×50	一宮支所	1階西側壁面	○	
23	標廷因	富士山図	日本画	額装	77×94	春日居郷土館	郷土館ロビー	○	事務室入口壁面
24	進藤武松	なかよし	ブロンズ像			石和図書館	図書館閲覧室	○	
25	田辺武夫	不明	洋画	額装	60×70	一宮支所	1階西側壁面	○	
26	田辺武夫	桃の里	洋画	額装	77×127	一宮支所	1階中央壁面	○	1982作
27	田辺武夫	不明	洋画	額装	60×70	一宮支所	1階東側壁面	○	
28	田辺武夫	フランスニューイサン ジョルジュにて	洋画	額装	21×31	一宮支所	2階応接室壁面	○	
29	田辺武夫	桃の春	油絵	額装	100号	桃の里文化館	ロビー壁面	○	
30	田辺武夫	秋のいちのみや	油絵	額装	100号	桃の里文化館	ロビー壁面	○	
31	野田修一郎	白い馬	油絵	額装	190×220(額)	春日居郷土館	郷土館ロビー	○	入口壁面
32	萩原英雄	石和早春	石モザイク			石和図書館	図書館入口壁面	○	
33	萩原英雄	石和早春原画	版画	額装	AP	石和図書館	館長席	○	
34	橋本守男	雪嶺を望む村	絵画	額装		境川総合会館	境川総合会館	○	油彩
35	早川次彦	八代の春	洋画(油 絵)	額装	100	市民窓口館	南館3階ロビー	○	
36	早川春子	不明	油絵	額装	12号	保健福祉館	石和保健福祉セン ター2階	○	
37	早川春子	テーブルの上の果実	油絵	額装	50号	春日居支所	あぐり情報ステー ションロビー	○	
38	半田強	都会は道化	油絵	額装	10号	石和図書館	図書館閲覧室	○	

市内の施設で展示中の美術作品

番号	作者	作品名	種類	仕様	作品の大きさ	施設名	保管又は展示場所	展示中	備考
39	半田強	静物(ギターの在る)	油絵	額装	15号	石和図書館	図書館閲覧室	○	
40	半田強	秋果	油絵	額装	20号	石和図書館	図書館閲覧室	○	
41	半田強	星護り	油絵	額装	10号	石和図書館	図書館閲覧室	○	
42	半田強	(廃墟)トルファン	油絵	額装	10号	石和図書館	図書館閲覧室	○	
43	半田強	識者	油絵	額装	10号	石和図書館	図書館閲覧室	○	
44	妣田圭子	とんとあしならしてな におどろう	ちぎり絵	額装	40号	春日居支所	あぐり情報ステーションロビー	○	
45	古屋悌二	箱根駒ヶ岳	油絵	額装	25号	保健福祉館	石和保健福祉センター2階	○	
46	古屋悌二	快晴	油絵	額装	40号	一宮福祉センター	一宮福祉センター	○	
47	細川秀年	桃	工芸	皿	直径45	一宮支所	2階応接室	○	
48	松尾敏男	ぼたん	洋画	額装	39×51	一宮支所	2階会議室壁面	○	
49	宮川 秀子	押し花絵	押し花	額装	53×44.5	境川総合会館	境川総合会館	○	
50	宮本 和郎	崖からつきでた小屋	日本画	額装	F50号	スコレーセンター	スコレーセンター 一階玄関正面	○	
51	宮本 和郎	流木の椅子	日本画	額装	F25号	スコレーセンター	スコレーセンター	○	
52	宮本 和郎	鶯宿の初夏	日本画	額装	幅230cm	市民窓口館	教育長室	○	屏風2曲を額装
53	望月 昇	赤富士	日本画	額装	115×100	八代支所	階段壁面	○	
54	矢野秀徳	シャボン玉	ブロンズ像			石和図書館	図書館入口	○	
55	矢場 保	天の橋立	工芸	額装	33×40	一宮支所	2階応接室壁面	○	丹後のちりめん生地にろうけつ染め
56	河野双岑	春宵	日本画	額装		スコレーセンター	スコレーセンター 2階廊下	○	資料展示室前
57	河野双岑	晩秋	日本画	額装		スコレーセンター	スコレーセンター 2階廊下	○	アートギャラリー前

市内の施設で展示中の美術作品

番号	作者	作品名	種類	仕様	作品の大きさ	施設名	保管又は展示場所	展示中	備考
58	古賀忠雄	鶉舎の朝	銅像			スコレーセンター	スコレーセンター 一階ホワイエ	○	
59	高田博厚	女優のマスク	銅像			スコレーセンター	スコレーセンター 一階ホワイエ	○	
60	小池藤雄	寂	銅像			スコレーセンター	スコレーセンター 一階ホワイエ	○	
61	白籬史郎	黄金富士	写真	額装		スコレーセンター	スコレーセンター 一階ホワイエ	○	
62	北村西望	喜ぶ少女	銅像			スコレーセンター	スコレーセンター 一階ホワイエ	○	
63	梶津翠月	焼丘	日本画	額装	F60号	スコレーセンター	スコレーセンター 一階会議室	○	会議室内
64	梶津翠月	白牡丹	日本画	額装	F30号	スコレーセンター	スコレーセンター 一階廊下	○	会議室前

市内の施設で展示中の美術作品